

## 航空・宇宙特集の 発刊に際して

取締役副社長  
航空機・特車事業本部長

西岡 喬



前回の特集発刊から約2年半を経過しました。

この間、航空・宇宙分野を取巻く事業環境には少なからず変化が生じています。

本特集では、これらの変化に対応して当社が現在取り組んでおります技術開発について紹介致します。

防衛航空機分野では、次期支援戦闘機XF-2の技術・実用試験の支援を通じ、円滑な量産機の配備につなげるべく万全の体制で臨んでいます。

防衛を取巻く予算環境は極めて厳しく、“防衛計画大綱”の見直しに伴う“中期防衛力整備計画”の見直しの中で防衛予算の縮減、取分け正面装備予算の縮減が行われています。

このような環境下で、当社としても基盤的防衛力整備の一環としての技術基盤及び生産基盤の維持を図るべく、先進技術の開発・実証のための技術実証機の提案やF-15近代化等の既存機の能力向上、防衛航空機の運用支援のための周辺支援システムの提案等新たな分野への取組みを行っています。

民間航空機分野では、90年代前半のエアライン不況による需要後退も完全に回復し、長期的にも5～6%の旅客需要の伸びが見込まれることから各エアラインの機体発注も好調です。

高度経済成長に支えられたアジア諸国の旅客需要の伸びは、昨年末以来の通貨経済危機による急激な落込みでエアラインが機体の受取り時期を繰延べる等の心配な面もありますが、ボーイング社の予測ではこれも短期的なものとしてされています。

このため、ボーイング社に納入しているB777後部胴体、尾部胴体等の当社における生産は、月産機数が大幅に増加、その他のボーイング社向け各種機体の生産も堅調に推移しており、民間航空機部門の基幹事業として大きく寄与しています。

当社は、主体性を持った航空機開発に備え、各種要素技術の蓄積、基盤技術の高度化、差別化によるコスト競争力を持つ開発・製造技術強化の努力を続けてきましたが、ボンバルディア社との国際協同開発プロジェクトである超長距離ビジネス機グローバル・エクスプレス、新世代短距離旅客機グッシュ8-S400等にその成果が結実しました。

さらには、エンジン、機体共当社製である我が国初の純国産民間ヘリコプタMH2000開発に結びつきました。

MH2000は、運輸省航空局より平成9年6月に型式証明を、平成10年1月には耐空証明を取得しましたが、飛行安全の更なる確認のため日本各地を飛行して飛行時間の累積及び低騒音性の確認を行っています。また、同時に内装や空調等居住性に係る製品開発を引続き行っています。

宇宙分野では、経済構造改革の余波を受け、これまで堅調さを示してきた宇宙開発予算も“聖域”扱いかから外され少なくとも今後3年の間は予算の抑制が続く状況にあると予測されています。

このような状況の中でも、H-II A ロケットは、打上げ性能、打上げ価格共に十分な国際競争力を有するロケットとして、国内外から商業衛星打上げロケットとしての高い評価と期待を受け、日本の宇宙開発の最優先事項として開発が順調に推移しています。

また、欧米の今後のロケット開発の動向をにらみつつ、国際競争力を有するH-II A ロケット後継機の検討、提案も実施したいと考えています。

さらには、究極の宇宙輸送機ともいえる完全再使用型宇宙輸送機開発に向けての技術開発にも取り組んでいます。

完全再使用型宇宙輸送機の技術実証実験機の位置づけにある宇宙往還実験機HOPE-Xの開発も平成9年度に開発開始のゴーサインが出され鋭意開発作業を行っているところです。

国際協力プロジェクトである国際宇宙ステーション計画での日本実験モジュールJEMについては、エンジニアリングモデルによる全機システム試験も終了し、2001年の打上げに向けてフライトモデルの製作が順調に推移しています。

宇宙事業の拡大のため、今までに培ってきた開発技術及び低コスト化技術をてこに世界市場への参入を目指し、その第一歩として米国のデルタIIIに極低温推進薬タンクを供給し始めましたが、今後、宇宙機器の輸出には積極的に取り組んでいきます。

航空・宇宙事業のすそ野を広げていくために、航空宇宙技術を応用した新製品・新事業にも積極的に取り組んでいます。

世界の最高性能を達成した大型高温衝撃風洞を始めとして、山梨リニア実験線車両、液体空気発電システム、液体空気空調システム、航空運行人社向けエンジンテストセル等々、既に製品化されたもの、あるいは製品化までもう一步の状況にあります。

本特集では特徴ある開発プロジェクトの例として、超長距離ビジネス機グローバル・エクスプレス、新世代短距離旅客機グッシュ8-S400、民間ヘリコプタMH2000、H-II A ロケットを取上げ紹介します。

次に、航空・宇宙技術の応用としての大型高温衝撃風洞、宇宙ステーション向け長期水生生物飼育装置等を紹介いたします。

航空・宇宙分野にとって厳しい事業環境である今こそ、長年培ってきた設計、生産技術と低コスト化技術をもって、世界市場で十分に太刀打ちできる競争力を確立、維持していくことが航空機・特車事業本部にとって重要であると認識しています。

今後の皆様のご指導、ご支援をお願い申し上げます。